

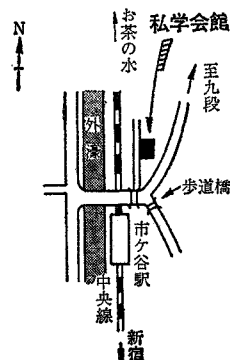
第 57 回通常総会開催のお知らせ <於東京>

▶ 5 月 28 日 (金) ◀

昭和 46 年度の通常総会は、次の日程で東京において開催いたします。総会後、特別講演、映画、懇親会がありますからふるってご参加下さい。

1. 期 日：昭和 46 年 5 月 28 日 (金) 13.30~18.00
2. 場 所：私学会館(東京都千代田区九段北 4-2-25・国電中央線市ヶ谷駅下車 3 分)
3. 次 第：
 - 1) 総 会 (13.30~15.00)
 - 事業報告
 - 決算報告
 - 名誉会員推挙
 - 土木学会賞の授与
 - 新役員の紹介
 - 2) 特別講演 (15.00~15.45)
 - ロサンゼルス地震震災について/埼玉大学教授 岡本 舜三
 - 3) 映 画 1~2 題 (15.50~16.30)
 - 4) 懇 親 会 (16.40~18.00)

<会場略図>



私学会館ホール、会員多数の参加を希望します。会費 1000 円、当日ご持参下さい。

土木学会昭和 46 年度全国大会案内 <於仙台市>

▶ 10 月 1 日 (金) ~ 3 日 (日) ◀

土木学会昭和 46 年度全国大会は、第 26 回年次学術講演会をはじめ、特別講演会、研究討論会、PR 展示・映画会、懇親会、見学旅行会を次の日程で仙台において開催いたします。

懇親会、見学旅行会、講演概要集購入などの申込方法は、学会誌 7 月号でお知らせします。

1. 特別講演会：昭和 46 年 10 月 1 日 (金) 9.00~12.00
東北工業大学

講演者：土木学会会長
東北大学教授 高橋 富雄
岐阜大学学長 今西 錦司

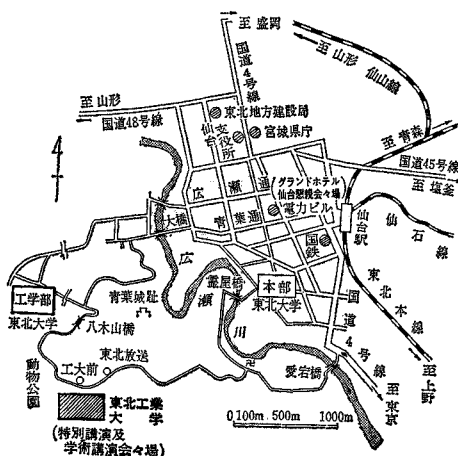
2. 第 26 回年次学術講演会：
 - 昭和 46 年 10 月 1 日 (金) 13.00~16.00
 - 10 月 2 日 (土) 9.00~16.00
 - 10 月 3 日 (日) 9.00~17.00
 東北工業大学

3. 研究討論会：
 - 昭和 46 年 10 月 1 日 (金) および 2 日 (土)
 - 16.00~17.30 東北工業大学

4. PR 展示・映画会：
 - 昭和 46 年 10 月 1 日 (金) 13.00~19.00
 - 10 月 2 日 (土) } 9.00~17.00
 - 10 月 3 日 (日) }
 東北工業大学

5. 懇 親 会：昭和 46 年 10 月 2 日 (土) 18.30~20.00 グランドホテル仙台
6. 見学旅行会：

<会場略図>



- (1) 日帰りコース 昭和 46 年 10 月 4 日 (月)
- ① 蔵王エコーラインコース
 仙台—茂庭(東北縦貫道路工事見学)—青根—エコーライン—遠刈田—船岡城跡—仙台
 - ② 中尊寺コース
 仙台—築館—巖美溪—毛越寺—中尊寺—水沢緯度観測所—一の関(解散)
 - ③ 松島コース
 仙台—仙台新港—塩釜—松島海岸—塩釜神社—仙台
- (2) 一泊コース 昭和 46 年 10 月 4 日 (月) ~ 5 日 (火)
- 青森(14 時 10 分集合)—八甲田ロープウェー—浅虫温泉(泊り)—竜飛(青函トンネル工事見学)—青森(18 時解散)

アルミナセメントコンクリートに関するシンポジウム ▶ 6 月 16 日 (水) ◀

土木学会コンクリート委員会ではかねてよりアルミナセメントコンクリートの施工指針(案)について検討してまいりましたが、原案がおおむねまとまりましたので、その説明および研究発表のためのシンポジウムを開催いたします。ふるって参加下さいますようご案内いたします。

1. 主 催: 土木学会コンクリート委員会
2. 日 時: 1971 年 6 月 16 日 (水) 9.30~17.00
3. 場 所: 土木学会土木図書館講堂(東京都新宿区四谷 1 丁目・国電四谷駅際外濠公園内)
4. 参 加 費: 無料(当日テキストを実費頒布しますので希望者はご購入下さい)
5. 申 込 方 法: 参加希望者は 5 月末日までに官製はがきに氏名、勤務先、連絡先を明記のうえ、アルミナセメントコンクリートに関するシンポジウム参加申込みと添記し、土木学会事業課にご送付下さい。なお、定員がありますので満員になり次第締切りますのであらかじめご了承下さい。

6. プログラム (○印発表者)

9.30~9.40	開会あいさつ	土木学会コンクリート委員会委員長 園分 正風
9.40~9.45	アルミナセメントの水和現象	日本セメント○植田 俊明
9.45~10.00	アルミナセメントの初期水和と微細構造	旭硝子○三島 清敬
10.00~10.15	アルミナセメントの転移抑制に関する実験	小野田セメント○元井操一郎・漆原孝太郎・長谷川静央
10.15~10.30	アルミナセメントコンクリートの熱的性質	建設省土研○柳田 力・佐取 一男
10.30~10.45	アルミナセメントコンクリートの水和熱による温度変化	東洋大○岩崎 訓明
10.45~11.00	アルミナコンクリートの内部歪に関する研究	近畿大○玉井 元治
11.00~11.15	アルミナセメントコンクリートの体積変化に関する研究	東工大 長滝 重義○今井 実
11.15~11.30	アルミナセメント使用上の問題点	東京大 園分 正風・岡村 甫・法政大○小林 正凡・電気化学 木下 旭
11.30~12.00	アルミナセメントコンクリート施工指針(案)の主旨説明および質疑(その1)	日本セメント○塚山 隆一
13.00~13.15	アルミナセメントコンクリートの転移と強度性状	東工大○長滝 重義・今井 実・新潟大 米山 紘一
13.15~13.30	屋外に打設したアルミナセメントコンクリートの長期強度試験	日本セメント○塚山 隆一・橋本 正幸
13.30~13.45	アルミナセメントコンクリートの各種養生条件下における凍結抵抗性	電力技研 永倉 正○阿部 博俊・岡沢 考雄
13.45~14.00	アルミナセメントコンクリートの凍結融解抵抗性	北海土試○前川 静男
14.00~14.15	アルミナセメントの付着に関する実験	九州大○徳光 善治
14.15~14.30	アルミナセメントコンクリートの打継目の強度に関する実験結果	中央大○西沢 紀昭・日本セメント 江浦 滋
14.30~15.00	アルミナセメントコンクリート施工指針(案)の主旨説明および質疑(その2)	東工大○長滝 重義 旭硝子 三島 清敬・岩瀬 昇
15.00~15.15	アルミナセメントコンクリートの作業性に関する研究	東洋大 岩崎訓明・都立大○黒井登起雄
15.15~15.30	アルミナセメントを用いた寒中コンクリートの研究	
15.30~15.45	アルミナセメントを使用した滑走路の緊急補修工事	前田道路 関 勇三郎・古屋 俊・旭硝子○酒井 亨
15.45~16.00	アルミナセメントを用いた二、三の工事例について	電気化学○三宅 信雄・松沢 芳登・木下 旭
16.00~16.15	アルミナセメントを使用したプレキャストコンクリートの諸特性	港湾技研 青木 義典・関 博○小野寺幸夫
16.15~16.45	アルミナセメントコンクリート施工指針(案)の主旨説明および質疑(その3)	法政大 小林 正凡

第 18 回海岸工学講演会講演募集

第 18 回海岸工学講演会を下記により開催致しますので、講演ご希望の方は“講演募集要項”をご参照のうえご応募下さい。

なお、前回より応募の際に論文要旨（800 字程度）を提出していただくことになっておりますのでご協力下さい。

1. 開催期日：1971 年 10 月 28 日（木）、29 日（金）
2. 場 所：札幌市自治会館
3. 講演申込締切：1971 年 5 月 31 日（月）
4. 講演原稿締切：1971 年 7 月 10 日（土）
5. 講演募集要項：

(1) 講演申込みの際は、つぎの事項をお含みおき下さい。

- ① 講演題目および 800 字程度の論文要旨
- ② 著者名（連名の場合には登壇者に○印をつける）ならびに職名および連絡先住所
- ③ 刷上り予定ページ数
- ④ 別刷希望数
- ⑤ スライド、図面等の有無

(2) 同一内容の講演を一緒に 2 つ以上申込むことおよび同一著者が重複して登壇するものは受け付けません。

(3) 原稿 1 編の長さは原則として 5 ページ以内（350 字詰原稿用紙 30 枚以内（図、表、写真を含む））と致します。

(4) 原稿の内容により 5 ページ以内に収録することが困難な場合は著者に実費（超過 1 ページにつき約 5000 円）を負担していただきます。ページ超過希望の場合は、原稿提出の際、必ずその旨明記して下さい。

(5) 講演の採否については、海岸工学委員会にこ一任下さい。

(6) 講演原稿は、“原稿執筆要項”に基づき執筆していただきます。なお、採用講演には原稿執筆要項を原稿用紙と一緒に送付致します。

(7) 講演申込先および連絡先

〒160 東京都新宿区四谷 1 丁目 土木学会海岸工学委員会 電 (03) 351-5138 (代表)

Coastal Engineering in Japan, 1971 掲載原稿の公募について

土木学会海岸工学委員会では Coastal Engineering in Japan, 1971 に掲載する原稿を公募致します。提出される原稿は第 17 回海岸工学講演会に発表されたものを原則としますが、それ以外のものでも結構です。下記要項をご参照の上 6 月末までに原稿をご提出下さい。

なお提出された原稿は海岸工学委員会で査読のうえ、必要に応じて修正をお願いすることがありますのでご了承下さい。

投 稿 要 項

- ① 投稿される原稿はすべて英訳し、タイプ用紙にダブルスペースでタイプ打ちして下さい。
- ② 図面はそのまま製版にとれるよう線図、文字、符号などすべてトレーシングペーパー（白か透明）にスミ入れし、著者の責任において完全な図面を提出して下さい。
- ③ 原稿 1 編当りの長さは、刷上り 10 ページを原則とし（刷上り 1 ページは約 600 ワード）、掲載原稿はすべて刷上り 1 ページあたり 1500 円の掲載料をいただきます。なお、規定ページを超過した分については 1 ページ当り 2500 円負担していただきます。掲載料は本文刊行後請求いたします。
- ④ 校正は著者校正とし、校正の時に原稿および図面を大幅に変更した場合は組替え料（実費）をいただきます。
- ⑤ 著者には本書一冊を差上げます。別刷は実費をいただきます。
- ⑥ 1971 年版の予定は下記のとおりです。

○原稿締切：1971 年 6 月末日／○著者校正：1971 年 10 月以降／○刊行予定：1971 年末

注：第 17 回海岸工学講演会の節 Coastal Engineering in Japan に掲載申込みを行なった方も上記要項をご参照のうえ原稿を提出して下さい。

第 7 回水工学に関する夏期研修会

▶ 7 月 21 日(水)～ 7 月 29 日(木) ◀

第 7 回水工学に関する夏期研修会を下記により開催いたしますので、ふるってご参加下さいませよう
ご案内いたします。

1. 開催期日：1971 年 7 月 21 日(水)～ 7 月 29 日(木)
2. 会 場：中国電力(株)本店総会議室(広島市小町 4 番 33 号・TEL. 0822-41-0211)
3. 対 象：大学終了程度
4. 題目・講師および日程(題目は多少変更することがあります)

A コース：7 月 21 日(水)～ 24 日(土)

7 月 21 日(水)	9.00～ 9.30	受 付		
	9.30～12.30	流出系モデルとその解析	京都大学助教授	高 棹 琢 馬
	13.30～16.30	都市化による流出変化	広島大学教授	金 丸 昭 治
7 月 22 日(木)	9.00～12.00	水理システムとシミュレーション	京都大学教授	中 岩 佐 義 朗
	13.00～16.00	構造物周辺の流れ	京都大学教授	山 川 博 次
7 月 23 日(金)	9.00～12.00	移動床の抵抗法則	徳島大学教授	杉 尾 捨三郎
	13.00～15.00	自然水の水質	岡山大学教授	小 林 純
	15.00～17.00	水質汚濁の現状	広島県衛生部長	湯 沢 信 治
7 月 24 日(土)	9.00～12.00	地下水(密度流的諸問題)	埼玉大学教授	嶋 祐 之
	13.00～15.00	中国地方の河川開発計画	建設省中国地建河川部長	山 本 憲 雄
	15.00～17.00	〔特別講演〕 流水中における物質の移流と拡散	中央大学教授	林 泰 造
	17.00～17.30	終 了 式		

B コース：7 月 26 日(月)～ 29 日(木)

7 月 26 日(月)	9.00～ 9.30	受 付		
	9.30～12.30	最近の波浪理論の境界値問題とその応用	九州大学教授	井 島 武 士
	13.30～16.30	波浪に対する構造物の動的応答	京都大学教授	岩 垣 雄 一
7 月 27 日(火)	9.00～12.00	波の変形(特に長周期波の進入による港域水面の振動について)	大阪大学教授	室 田 明
	13.00～16.00	波浪観測と解析	京都大学教授	土 屋 義 人
7 月 28 日(水)	9.00～12.00	海浜過程	鳥取大学教授	野 田 英 明
	13.00～15.00	シーパースの設計と施工	鹿島建設(株)土木設計部次長	島 田 安 正
	15.00～17.00	瀬戸内海周辺の港湾整備計画	鹿島建設土木工務部臨海土木課長	内 野 武 彦
7 月 29 日(木)	9.00～12.00	瀬戸内海の海水交換	運輸省第 3 港湾建設局技術次長	北 村 浩 行
	13.00～15.00	工場排煙の大气拡散理論と応用	広島大学教授	前 川 力
	15.00～17.00	〔特別講演〕 津波特論	三菱重工業長崎研究所	井 手 靖 雄
	17.00～17.30	終 了 式	東北大学教授	岩 崎 敏 夫

5. 定 員：A コース 300 名, B コース 300 名
6. 参 加 費：1 コースにつき 5 500 円(テキスト代を含みます)
7. 申込み方法：受講希望者は、① 氏名、② 勤務先および職名、③ 連絡先住所、④ コース名を明記のうえ、参加費(現金書留)を添えてお申込み下さい。
8. 申 込 先：土木学会事業課(郵便番号 160 東京都新宿区四谷 1 丁目 電話 東京 03-351-5138)
9. 申込期限：6 月 30 日

鋼鉄道橋設計標準解説第 1 版購入の方へ

鋼鉄道橋設計標準解説第 1 版(45 年 11 月 30 日発行)を購入された方は訂正追加表ができましたので土木学会へはがきでご連絡下さい。

第 11 回地震工学研究発表会

▶ 7 月 20 日 (火) ~ 21 日 (水) ◀

標記研究発表会を下記により開催致しますので多数ご参加下さるようご案内致します。

1. 期 日 : 1971 年 7 月 20 日 (火) ~ 21 日 (水) の 2 日間
2. 会 場 : 土木学会土木図書館講堂 (東京都新宿区四谷 1 丁目・国電, 地下鉄 四ツ谷駅隣外壕公園内・
電話 03-351-5138 番)
3. 主 催 : 土木学会耐震工学委員会
4. プログラム : ○印は講演者

第 1 日 : 7 月 20 日 (火)		
9.30 ~ 9.40	開会あいさつ	土木学会耐震工学委員会委員長 岡本 舜三
9.40 ~ 9.55	(1) 振動による飽和砂の液化に対する載荷重の影響について	山口大学工学部 ○大原 資生・鈴岡 直彦 大阪土質試験所 岩崎 好規
9.55 ~ 10.10	(2) 疲労破壊としての砂の液化現象とその解析法	東京大学工学部 ○李 相一・石原 研而・吉田 喜忠
10.10 ~ 10.25	(3) 側方拘束状態での飽和砂の動的特性	建設省土木研究所 ○佐々木 康・後藤 昌隆
10.25 ~ 10.40	(4) 砂の流動化に及ぼす粒子形状の影響について	
10.40 ~ 11.00	討 議 (1)~(4)	
11.00 ~ 11.10	休 憩	
11.10 ~ 12.10	[特別講演] 巨大地震について	東京大学教授地震研究所 金 森 博 雄
12.10 ~ 13.10	昼 食・休 憩	
13.10 ~ 13.25	(5) 有限要素法による粘弾性体の震動解析	電力中央研究所技術第 2 研究所 渡辺 啓行
13.25 ~ 13.40	(6) 沈埋トンネル水平部の野外模型振動実験	運輸省港湾技術研究所 ○青木 義典・土田 肇・林 聡
13.40 ~ 13.55	(7) 沈埋トンネルの模型振動実験	大成建設技術研究所 ○岡崎 孝夫・同土木設計部 浜田 政則
13.55 ~ 14.10	(8) 沈埋トンネルの地震観測	東京大学生産技術研究所 田村重四郎・埼玉大学理工学部 岡本 舜三 東京大学生産技術研究所 加藤 勝行・大成建設 ○中川 良隆
14.10 ~ 14.25	(9) 地中埋設管の振動性状について	京都大学工学部 後藤 尚男・京都大学防災研究所 土岐 憲三・京都大学大学院 ○高田 至郎
14.25 ~ 14.40	(10) パイプラインの地震時応力のてい減法	電力中央研究所技術第 2 研究所 ○桜井 彰雄・栗原千鶴子・高橋 忠
14.40 ~ 15.10	討 議 (5)~(10)	
15.10 ~ 15.20	休 憩	
15.20 ~ 15.35	(11) 八郎潟干拓堤防の地震動特性について	東北大学工学部 河上 房義・東北工業大学工学部 ○浅田 秋江・東北大学工学部 森 芳信
15.35 ~ 15.50	(12) 盛土堤の常時微動の観測	運輸省港湾技術研究所 土田 肇・○野田 節男・倉田 栄一
15.50 ~ 16.05	(13) アスファルトセンターコアをもつロックフィルダムの震度法による耐震性の検討 (アースコア型式およびアスファルトフェーシング型式との比較)	大成建設土木設計部 泉 博充・中央大学理工学部 片山 恒雄 大成建設土木設計部 ○浜田 政則
16.05 ~ 16.20	(14) 岩盤地帯における地震観測	埼玉大学理工学部 ○岡本 舜三・東京大学生産技術研究所 田村重四郎・加藤 勝行
16.20 ~ 16.35	(15) 地中における地震動加速度の実測と解析	建設省土木研究所 栗林 栄一・岩崎 敏男・辻 勝成
16.35 ~ 16.50	(16) 文献からみた日本とアメリカ合衆国の道路橋に対する耐震設計の相違点	建設省土木研究所 栗林 栄一
16.50 ~ 17.05	(17) 地震時避難の一つのシミュレーション	東京大学地震研究所 ○伯野 元彦・東京工業大学大学院 石塚 啓之 鹿島建設技術研究所 竹田 哲夫
17.05 ~ 17.40	討 議 (11)~(17)	
第 2 日 : 7 月 21 日 (水)		
9.30 ~ 9.45	(18) 応答スペクトルによる強震動の方向性の検討	中央大学理工学部 片山 恒雄
9.45 ~ 10.00	(19) 地震応答スペクトルに及ぼす諸因子	建設省土木研究所 栗林 栄一・○岩崎 敏男・辻 勝成
10.00 ~ 10.15	(20) 構造物の最大地震応答の確率分布について	京都大学工学部 亀田 弘行
10.15 ~ 10.30	(21) 曲げ振動系の非線形地震応答に関する研究	東京都立大学工学部 奥田 秋夫・○園井 隆弘
10.30 ~ 10.50	討 議 (18)~(21)	
10.50 ~ 11.00	休 憩	
11.00 ~ 12.00	耐震工学委員会研究会の活動状況について (1. 地震入力, 2. 応答解析と評価, 3. 土と構造物の相互作用)	常任委員 桜井 彰雄・伯野 元彦・石原 研而
12.00 ~ 13.00	昼 食・休 憩	
13.00 ~ 13.15	(22) 等価履歴減衰定数に関する一, 二の考察	京都大学工学部 後藤 尚男・京都大学大学院 ○家村 浩和
13.15 ~ 13.30	(23) 非線形多孔質弾性層の振動性状に関する研究	京都大学工学部 後藤 尚男・京都大学防災研究所 土岐 憲三・京都大学大学院 ○佐藤 忠信

- 13.30~13.45 (24) 周期荷重を受ける弾性地盤上の板の応力解析 九州大学工学部 横田 漢
 13.45~14.00 (25) 構造物基礎の非線形水平地盤反力について 京都大学工学部 後藤 尚男・○吉原 進・京都大学大学院 北浦 勝・宮脇幸治郎
 14.00~14.15 (26) 岩盤に固定された杭の動的挙動について 新日本製鉄相模原研究所 ○宮島 信雄・山田通一郎・議賀 俊成
 14.15~14.30 (27) 杭基礎の動的破壊の Real Time 模型実験 建設省土木研究所 ○横山 功一・東京大学地震研究所 浅野 照雄・伯野 元彦
 14.30~15.00 討 議 (22)~(27)
 15.00~15.10 休 憩
 15.10~15.25 (28) 小型井筒の強制振動試験 国鉄構造物設計事務所 ○田村 浩一・神谷 良陳・西村 昭彦
 15.25~15.40 (29) 基礎に大きな減衰を有する橋脚の振動特性 京都大学工学部 山田 善一・大林組技術研究所 ○後藤 洋三
 15.40~15.55 (30) 二方向偏心荷重を受けるケーソン基礎の耐震安定計算 本州四国連絡橋公団設計第2部 多田 浩彦・○山下 理雄
 15.55~16.10 (31) 地震の上下動成分がケーソンの安定におよぼす影響について 運輸省港湾技術研究所 ○土田 肇・倉田 栄一
 16.10~16.25 (32) コンクリート基礎体の加振実験と地震時応答観測結果 東京電力技術開発研究所 野口 俊郎・○堀口 潤一・横手 敏郎
 16.25~16.40 (33) 地震時における低層構造物の基礎と地盤の相互作用について 信州大学工学部 島 坦
 16.40~16.55 (34) 関門橋の振動特性の実測と解析 建設省土木研究所 栗林 栄一・○原田 裕・日本道路公団建設第1部 荒川 直士
 16.55~17.30 討 議 (28)~(34)
 17.30~17.40 閉会あいさつ
5. 講演概要：当日会場にて実費（定価未定）頒布致します。なお、今回は“地震工学文献目録”を巻末に所載予定です。ご了承ください。
6. 懇親会：下記により開催致しますのでご希望の方は官製はがきに氏名、勤務先、連絡先を明記のうえ事前に土木学会事業課宛お申込み下さい。なお、会費は当日会場受付にていただきます。
- (1) 日 時：7月20日（火）18.00～
 (2) 場 所：土木学会土木図書館5号室
 (3) 会 費：1000円
 (4) 定 員：50名

小包郵便料金改正に伴う出版物送料の精算について

昭和46年4月17日付をもって小包郵便料金が平均80%という大幅な値上がりとなりました。したがって土木学会出版物の送料も一部改正になりますが、学会としてはたまたま「1971年4月現在・土木学会出版物総目録」を発表した直後でありますので、とりあえず本目録表示の送料をご送付いただき、不足分は発送時に精算いたしますのでご諒承下さい。

土木図書館蔵書目録	1967 第1集	● 700円	会員特価	600円 (〒170)
土木図書館蔵書目録	1968 第2集	● 200円	会員特価	150円 (〒50)
土木図書館蔵書目録	1969 第3集	● 220円	会員特価	200円 (〒50)
土木図書館蔵書目録	1970 第4集	● 220円	会員特価	200円 (〒50)
土木図書館蔵書目録	1970 第5集	● 220円	会員特価	200円 (〒50)

映画会開催について<於土木学会講堂>

▶ 6月12日(土) ◀

1. 場 所: 土木図書館講堂(東京都新宿区四谷1丁目 国電・地下鉄四ツ谷駅下車)
 2. 日 時: 毎月第2土曜日 14.00~8月は12日(土)です。
 3. 上映映画:
 - 「コンクリート沈埋函の施工」: 火力発電所冷却水路取水設備用沈埋函の施工記録
 - 「静かな破碎」: 火薬利用による新しいコンクリート破碎工法の安全性、能率性の紹介
 - 「ゆれ動く日本列島」: 1968年十勝沖地震の記録

なお、上映映画は都合により変更することがございますのであらかじめご了承下さい。
 4. 参加費: 無料、土木関係以外の方も歓迎致します。
- 本映画会に関する問合せは 土木学会視聴覚教育委員会宛にお願い致します (TEL 03(351)5130)。

第4回土木計画学講習会

▶ 東京会場 8月中旬, 福岡会場 8月下旬 ◀

土木技術者が産業基礎整備・生活環境整備・防災等の土木事業をとおして、社会の繁栄と福祉の増進に寄与するためには、必然的に計画の合理性を高めることが要求されます。

最近における土木事業は量・質ともに著しく増大しており、土木事業の計画部門に何らかの形で携わる技術者の数も非常に多くなってきています。その結果、ある程度体系づけられた手法が提供される場が求められるようになって参りました。

この間の事情に鑑み、土木計画の手法を中心に基礎的な理論と実際問題への応用を第一線の技術者に学んでいただくことを主なねらいとして、過去3回にわたって土木計画学講習会を開催致しましたが、今回引き続いて「最適化手法とその土木計画への具体的な応用例」と題しまして、すぐに実務に応用できる手法の講習会を開催することとなりました。

とくに今回は、第1~3回の講習会において5~6題を扱っていたのを改めまして、1日2題・計4題に題目をしぼり、密度の高い講習会とする予定です。関係技術者のご参加をおすすめします。

1. 主 題: 最適化手法とその土木計画への具体的な応用例
2. 主 催: 土木学会土木計画学研究委員会
3. 期 日: 東京会場/8月中旬2日間 } (詳細は決まり次第本欄でお知らせします)
福岡会場/8月下旬2日間 }
4. 会 場: 東京会場/土木学会土木図書館講堂(東京都新宿区四谷1丁目, 電話(03)351-5130番)
福岡会場/未定(決まり次第本欄でお知らせします)
5. 参加費: 会員 @ 3000円, 会員外 @ 3500円(テキスト代を含みます)
6. プログラム(一部交渉中): <第1日>
 - (1) 上下水道における最適化手法 末石富太郎・内藤正明(京大)
 - (2) 宅地造成における最適化手法 河原畑 良 弘(奥村組)
 <第2日>
 - (3) 鉄道ヤードにおける最適化手法 菅原 操(東工大)
 - (4) 港湾における最適化手法 工藤和男(運輸省)
7. 申込方法: 参加希望者は、①氏名、②所属部課名、③連絡先(所属)住所氏名、④会員区分、⑤連絡事項、等を記入した用紙に会費を添えて現金封書にて下記まで申込んで下さい。
〒160 東京都新宿区四谷1丁目 土木学会事務局編集課
8. 定 員: 東京会場/180名, 福岡会場/(未定)
9. 備 考: 不詳点は電話にて係員にご下問願いたい。(03)351-5130

「構造物およびその構成要素の強度と安全性」に関する研究発表論文募集

(第 18 回橋梁・構造工学研究発表会)

例年行なわれております橋梁・構造工学研究発表会を本年度は標題のテーマにより、下記のとおり開催致します。趣旨につきましては、本誌 3 月号にも予告致しましたが、多数の方がふるって論文提出にご応募下さい。

1. 期 日：1971 年 12 月 3 日 (金)
2. 共 催：日本学術会議構造研究連絡委員会・土木学会・日本建築学会
3. 会 場：土木学会土木図書館講堂 (東京都新宿区四谷 1 丁目)
4. 申込要領：
 - (1) 論文内容：次の各項に関する独創的な実験あるいは、理論的研究を対象とする。
 - ① 繰返し荷重をうける構造物の挙動と強度
 - ② 構造物およびその構成要素の耐荷特性、特に初期不整、残留応力などの影響
 - ③ 接合および接合部の挙動と安全性の評価
 - ④ 構造物およびその構成要素の強度、変形能にもとづく安全度の評価
 - (2) 申込方法：8 月 31 日までに、論文題目、発表者氏名 (連名の場合は登壇者に○印をつける)、勤務先、および連絡先と 100 字以内の内容概要を添えて、学会宛お申込み下さい。
採否は日本学術会議構造研究連絡委員会にお任せ願います。
採用のうちは 10 月 15 日までに講演原稿の提出をお願いすることになります。

第 21 回応用力学連合講演会講演募集

共 催：日本学術会議力学研究連絡委員会、*応用物理学会、土木学会、日本機械学会、日本建築学会、日本鉱業会、日本航空宇宙学会、日本数学会、*日本造船学会、日本物理学会 (*印幹事学会)

1. 開催要領：本講演会を活発にするために、つぎの要領により開催します。
 - 1) テーマ別のシンポジウムと、これに関連した研究論文の発表
 - 2) テーマにかかわらない研究論文の発表
テーマ別のシンポジウムにおける特別講演は、運営委員会が幾人かの方々をお願いします。
これとは別に、1), 2) の研究論文の発表を広く募集しますから、ふるって応募してください。今年のテーマは下記の通りです。
2. テー マ：[A] 拡散現象, [B] 応用力学における波動・衝撃現象, [C] 破壊力学, [D] 有限要素法による数値解析
3. 日 時：1971 年 10 月 26 日 (火), 27 日 (水) 2 日間
4. 会 場：日本学術会議 (東京都港区六本木 7-22-34 TEL 03-403-6291)
5. 申込期日：1971 年 8 月 26 日 (土) 正午までに所属学会必着
6. 申込要領：

講演申込みは所属学会を通じて行ない、参加学会会員以外の方は直接幹事学会へ申込むこと。講演内容はすでに発表されたものでさしつかえないが、最近の研究に属するものが望ましい。申込方法は下記要領で行なうこと。

 - a) 講演申込希望者は、前もってのはがきに「第 21 回応用力学連合講演会講演申込用紙前刷原稿用紙請求」と題記し、①通信先、②所属学会名および会員資格、③氏名を明記のうえ、所属学会あて請求してください。
 - b) 送附された正式講演申込用紙に改めて記入し、上記申込締切期日 (6 月 26 日 (土)) までに所属学会へ必着するよう折返し提出してください。
上記 a) のはがきによる請求だけでは講演申込受けにはなりませんのでご注意ください。
7. 前刷原稿：上記申込者には学会より送付する所定の前刷原稿用紙を用い、2 枚の概要を、1971 年 7 月 31 日 (土) 正午までに所属学会まで送付して頂きます。
8. Proceedings：従来の通り欧文 Proceedings は日本学術会議力学研究連絡委員会によって発行される予定です。その詳細は講演者あて追って連絡されることになっております。

斜面安定工法講習会

▶ 於大阪・7月6日(火)、於東京7月9日(金) ◀

主 催：日本材料学会

協 賛：土質工学会・土木学会・農業土木学会・日本建築学会

従来、斜面（ノリ面）をいかに安定させるかは重要な問題であり、また、むずかしい問題でありました。日本材料学会土質安定材料委員会ではこの問題と取り組み、ここ数年、斜面の崩壊機構とその安定処理工法について研究、討論を重ね、その成果が「斜面安定工法——指針と解説」として出版される運びとなりました。そこで、これらの成果を一般の参考と供し、この問題の解決にいくらかでも寄与するため、技術講習会を開催することになりましたので、関係各位にはふるってご参加くださるようご案内申し上げます。

1. 開催地・会期・会場：

開催地	会 期	会 場	定 員
大 阪	7月6日(火) 9.30~17.00	大阪府農林会館 大阪市東区法円坂町10 (Tel. 06-941-0821) 地下鉄谷町四丁目下車 東100m NHK 東隣	300
東 京	7月9日(金) 9.30~17.00	私 学 会 館 東京都千代田区九段 4-4 (Tel. 03-261-9921) 国電市ヶ谷駅前	300

2. 科 目：① 斜面安定工法概説
 ② 斜面の崩壊機構
 ③ 斜面の調査
 ④ 斜面安定の計画，設計，施工
 ⑤ 斜面の各種安定処理工法

3. 科目・時間割および講師（講師の都合により変更する場合があります）交渉中

科 目	時 間	講 師	
		大 阪	東 京
①	9.30~10.00	鈴木 健夫 (広島工大)	松尾 新一郎 (京大工)
②	10.00~12.00	中堀 和英 (中堀ソイルコーナー) 西田 一彦 (関西大工)	村上 良丸 (首都高速道路公団) 内藤 和章 (大林組)
③	13.00~14.00	佐々木 伸 (大阪市港湾局)	三木 五三郎 (東大生研)
④	14.00~15.00	中井 喜一郎 (神戸市開発局)	小原 洋 (西松建設)
⑤	15.00~17.00	三瀬 貞 (阪市大工) 河野 伊一郎 (京大工)	星野 出雲 (大成道路) 溝口 梧郎 (ライト工業)

4. 参加料：1名 3000円 (テキスト含む、テキストは日本材料学会編、鹿島出版会発行「斜面安定工法——指針と解説」定価 1000円を使用する)
5. 申込方法：参加者氏名，所属，連絡先を明記し，参加料を添えて日本材料学会講習会係（京都市左京区吉田泉殿町1の101 Tel. 075-761-5321）宛お申込みください。申込みのあった方には参加証をお届けします。なお申込みにあたっては必ず参加希望会場を指定してください。すでにテキストお持ちの方は参加料（未定）のみとします。
6. 申込期日：大阪会場 6月30日(水)
 東京会場 6月30日(水)
 両会場とも定員に達すれば締切前でもお断わりすることがありますので、早めにお申込みください。

中国四国支部行事案内 (郵便番号 730 広島市基町十番三号 (自治会館内))
電話 0822-21-2666

(1) 昭和 46 年度中国四国支部年次総会・特別講演会 ▶ 5 月 31 日 (月) ◀

- 1. 会 場：山口大学工学部 (山口県宇部市常盤台 電 0836-31-5100)
- 2. 期 日：1971 年 5 月 31 日 (月)
- 3. 総 会 (10.30~10.50)
- 4. 特別講演会題目および講師 (11.00~16.00)

山口県の土木事情について 山口県土木部長 平岡 義孝
 大気汚染 山口大学医学部教授 野瀬 善勝
 関門架橋 日本道路公団関門建設所所長 乙藤 憲一
 周防灘開発 運輸省第四港湾建設局長 山下 博道

(2) 第 23 回学術講演会 ▶ 5 月 30 日 (日) ◀

- 1. 会 場：山口大学工学部
- 2. 期 日：1971 年 5 月 30 日 (日) 9.00~17.00
- 3. 講演題目および講師 (発表時間 1 題討議を含めて 12 分)

第 I 教室

第 I 部門：応用力学・構造力学・橋梁等 (9.00~12.00)

- (1) 動的共役ばりに関する研究 名古屋大学○大森和実・山口大学 工修 中川建治
- (2) 床組の考慮したトラス橋の自由振動解析について 山口大学 工修 会田忠義
- (3) 箱形断面構造物の空気力学的挙動に関する研究 徳島大学 工修 宇都宮英彦
- (4) 鋼併用継手の疲労試験 広島工大 工博 桜井季男・○皆田 理
- (5) 控え欄を有する塔状構造物の振動に関する基礎的研究 (スライド) 中央復建コンサルタンツ 工修 萩森重吉
- (6) 変継面棒の応力波伝播について (スライド) 広島大学 工修 佐藤 誠・○原 誠己
- (7) 曲線桁橋の床版応力に及ぼす曲率の影響について (スライド) 広島大学 工修○上野谷実・工博 大村 裕
- (8) 斜張橋の静力学的性状について 徳島大学 工博 星 治雄・阿南工業高専 工修○横田健一
- (9) 安定性を考慮した平面棒構造物の塑性解析について 徳島大学 工博 星 治雄・工修 児島弘行・工修 平尾 深・芙蓉海洋開発 工修 井上 滋
- (10) 有限要素法によるプレートガーダーの腹板の弾性座屈の解析 徳島大学 工博 星 治雄・工修 児島弘行・工修○沢田 勉
- (11) 曲板のせん断座屈および後座屈挙動について (スライド) 三菱重工 工修 橋本安之・広島大学 工博 大村 裕
- (12) SLP 法による連続桁の最適設計 愛媛大学 工修 大久保禎二・鴻池組○松浦良和
- (13) 斜め移動支を有する桁の模型実験 (スライド) 広島建設コンサルタント 坂田静雄・大田孝博・○副島 勝
- (14) 大島大橋下部構造の計画について 道路公団 沼田耕一・○近藤建雄
- (15) 広島大橋下部工の施工計画について 道路公団 三瀬 純・○中島英二

第 II 部門：水理学・水文学・河川・港湾・海岸工学・発電水力・衛生工学等 (13.00~16.30)

- (16) 日光地用防波潜堤について 徳島大学 工修 三井 宏・○川原靖惟
- (17) 防波堤開口部の形状に起因する 2, 3 の問題点について 徳島大学 工修 三井 宏・工修 筒井茂明・○亀川和正
- (18) 波による底質の浮遊に関する実験 鳥取大学 工博 野田英明・○岩佐敏博
- (19) 海域における拡散のシミュレーション 三菱石油○貞清忠則・山口大学 工修 浦 勝
- (20) 宇部市上水道の需要分析 山口大学○谷岡 隆・工修 浦 勝
- (21) 山口県における廃棄物の処理処分体系に関する一考察 山口大学 工博 中西 弘・○田村洋一
- (22) 欠測降雨の補間についての考察 徳島大学 工博 端野道夫・○吉田 俊・一栗 寛
- (23) 流域モデルの簡易化に関する考察 愛媛大学 農博 豊国永次・○萩原運弘
- (24) 降雨実験装置における雨滴発生機構について (第 1 報) (スライド) 鳥取大学 工修 寺西増治・○村瀬義典・日本水道コンサルタント 平宇 康
- (25) 中間流出時の流出について 広島大学 工博 金丸昭治・工修 三島隆明・○児玉一夫
- (26) 昭和 45 年台風 10 号による高知周辺の内水災害 愛媛大学 農博 豊国永次・高知大学○近藤邦英・愛媛大学 大橋行三
- (27) 瀬戸内海地域における大規模河川湖建設計画をめぐる諸問題について 中国地方建設局 工修 山岸俊之・○阿部信夫
- (28) 棧橋度に関する実験的研究 (スライド) 徳島大学○岡部健士・塩谷 昭・工博 杉尾裕三郎
- (29) 水平噴流による洗濯について 山口大学 工修 斎藤 隆
- (30) 横スリットによる噴砂現象 愛媛大学 滝野正次
- (31) 傾斜底水門の流量係数について (スライド) 広島大学 工修 名合宏之・桐原圭司・○楠 喜悦

第 II 教室

第 III 部門 (土質力学・基礎工学・土木機械・施工等) (9.00~12.00)

- (1) 砂粒子の沈降について 山口大学 柴田幸信
- (2) 一次元圧密試験の Scale Effect について (スライド) 広島大学 工修○島山和憲・工博 網干寿夫

- (3) 大山山灰土の強度に関する実験的研究 (スライド) 鳥取大学 工博 久保田敬一・○藤村 尚
 - (4) 簡単な平面ひずみせん断試験 (スライド) 山口大学 工博 大原資生・○宮内 彰
 - (5) くり返しせん断力による一面せん断試験 (スライド) 山口大学 工博 大原資生・○永田洋文
 - (6) 締め固め土の動的性質の変化について 山口大学 工博 大原資生・山口工業短期大学部○田中 実
 - (7) 地震時の飽和砂の液化に対する載荷重の影響 (スライド) 山口大学 工博 大原資生・○鈴岡直彦
 - (8) 地震時受働土圧の実験的研究 (スライド) 山口大学 工博○大原資生・鈴岡直彦
 - (9) 地震振動による堤体の応答について 大阪市役所○山口健二・徳島大学 宇都宮英彦・工修 山上拓男・工博 小田英一
 - (10) 堤体下部の非均質、異性性地盤中の流れに関する有限要素解析について 徳島大学 工修○山上拓男・熊谷組 横井義一
 - (11) 有限要素法による盛土斜面の弾塑性解析 徳島大学 工修 山上拓男・○武内 滋
 - (12) インバートアーチを有する巻立トンネルの下盤応力分布の光弾性実験について 阿南工専○米津 聖・徳島大学 工博 小田英一・高知工専 大谷 亘・徳島大学 渡辺 弘
 - (13) アスファルト合材のひずみについて 山口大学 樋渡正美・山口大工業短期大学部○上田 満・山口大学 兼行啓治・飛鳥建設 原田 寛
 - (14) フッ化物による表面処理工法の耐久性について (スライド) 広島工業大学 鈴木健夫・○島 重章
- 第IV部門 (鉄道・トンネル・道路・コンクリートおよび鉄筋コンクリート・土木材料・都市計画・交通・測量等)
(13.00~17.00)
- (15) 交差点交通制御に関する基礎的研究 (スライド) 広島大学○福田和國・三上範生・工博 門田博知
 - (16) パーセントリップ調査の方法論的研究 (1) 愛媛大学 工博 安山信雄・○藤目節夫
 - (17) 中国地方における都市間事業所連関構造について 中国地方建設局 工修 山岸俊之・○若本邦夫
 - (18) 輸送機関別分担率に関する一考察 鳥取大学 工修○中原清志・鹿島建設 八坂雅利
 - (19) 広島都市圏における大量輸送機関計画 中国地方建設局 椎名 彪・広島市○河合 武
 - (20) 砕石の形状と粒度について 県立高知工業高校 宮田隆弘
 - (21) かた練りコンクリートに対する混和材料の使用法 (スライド) 徳島大学 工修 竹村和夫
 - (22) 膨張性混和材 (CSA) 混入コンクリートに関する基礎的考察 (スライド) 徳島大学 工修 戸川一夫
 - (23) 即時脱型を行なったコンクリートの配合と締固め条件 (スライド) 徳島大学 笠井弘之
 - (24) 減水遅延剤を添加したコンクリートの異状凝結遅延現象 (スライド) 中国電力技術研究所 藤木洋一
 - (25) 富配合コンクリートの配合設計について 広島大学 工博○船越 稔・工修 米倉亜州夫
 - (26) 即時脱型を行なったコンクリートのクリープと乾燥収縮 (スライド) 徳島大学 堅川孝生
 - (27) 膨張性混和材 (CSA) を用いたコンクリートのクリープ性状 (スライド) 徳島大学 藤江義郎
 - (28) 吸水の多い軽量粗骨材の気乾状態での使用 広島大学 工修 米倉亜州夫
 - (29) マサ土を用いたモルタルおよびコンクリートの性状 愛媛大学 松木三郎
 - (30) ジュミットハンマーによるコンクリートの圧縮強さについて 山口大学 工博 加賀美一二三・山田辰次・九州共立大学○大野一彦
 - (31) コア供試体の引張強度試験方法に関する一考察 山口大学 工博 加賀美一二三・○長谷川博・兼行啓治
 - (32) 腹鉄筋を配置した鉄筋コンクリートばりのせん断強さ 広島大学 工博 船越 稔・○橋本道夫
 - (33) 腹鉄筋を配置した軽量PC梁のせん断強さ 広島大学 工博 船越 稔・青景平昌・○本光清治

(3) 見 学 会

▶ 6 月 1 日 (火) ◀

1. 期 日：1971 年 6 月 1 日 (火)

2. 見学コース：

9.00 発 宇部新川駅前～11.00 関門架橋見学～11.30 昼食～12.00 架橋タワー及び山頂より新幹線
トンネル説明 13.30 発～14.00 下関駅経由～14.30 小月 (中国縦貫道見学・説明) 15.30 発～17.00
宇部新川駅前着 解散

3. 定 員：50 名

4. 会 費：500 円

5. 申込方法：参加希望者は勤務先、連絡先、氏名を明記のうえ会費をそえて下記にお申込み下さい。

広島市千田町 3 丁目 8 番 2 号 広島大学工学部 門田研究室 電話広島 (41) 1151 内線 73